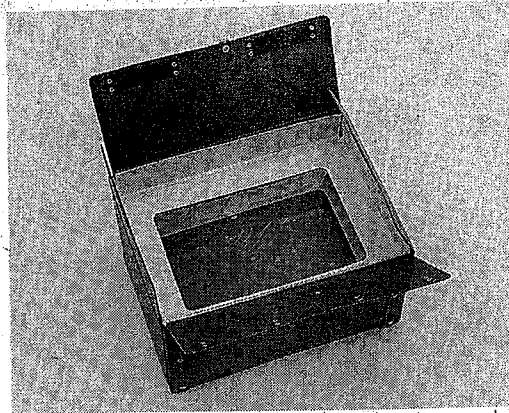


トッパン・フォームズ

100回利用できる紙箱

対段ボール 強度6倍、コスト1/3



「紙コンテナ」は空気のすき間をなくした厚紙を使い、耐荷重は500キログラム

CO₂排出、7割削減

配送サービスの主な用途

- ・金融機関の本社・支店間での書類の輸送
- ・トナーカートリッジなど補給部品の輸送
- ・レジやプリンター、サーバー、関連部品などの輸送
- ・液晶テレビやプラズマテレビなど精密機器の引っ越し
- ・大量の文書や帳票類の輸送

トッパン・フォームズは来年1月から、段ボールより強度を6倍に高めた紙箱を使った事業を始める。自社の配送サービスに活用するほか、別の運送会社にも外販もする。100回程度使えるため、段ボールに比べコストが3分の1で済むほか、年間の二酸化炭素(CO₂)排出量を7割減らせる。環境負荷とコストを同時に低減できる利点を訴え、需要を開拓する。

新しい紙箱「紙コンテナ」は空気のすき間をなくした厚紙を使い、耐荷重を段ボールの6倍である500キログラムに高めた。梱包製品を手掛けるスターウェイ(東京・港)が

開発。トッパン・フォームズは9月に同社から製造、販売などのライセンスを引き継いだ。トッパン・フォームズは伝票や帳票類の印刷販売が主力だが、企業などから配送を請け負うサービスも手掛ける。本支社間で大量の書類をやり取りする金融機関や、精密機器を出荷する電機メーカーなどが主な顧客。従来は配送サービスに

使う段ボールは1箱100円で、1回しか使わなかった。これに対し、紙コンテナは3000円するが、100回程度使えるため、1回当たりの価格は段ボールの3分の1の30円で済む。月に段ボール5000箱を使用する企業が紙コンテナに切り替えた場合、箱代を4割安い750万円に抑えられるほか、箱の廃棄に必要な2

16万円の負担がなくなる。さらに箱の発注業務などはトッパン・フォームズが担うため必要ない。空箱を回収するため追加の物流費として480万円が必要になるが、顧客が2年間に負担するコストは従来より3割少ない1300万円に抑えられるという。箱の製造時に排出するCO₂は段ボールの2倍

に増えるが、紙コンテナは繰り返し使えるため、年間排出量は7割減らせる。自社の配送サービスに活用するほか、環境負荷とコストを抑えたい運送会社などに販売もする。紙コンテナ関連の売上高として、2016年3月期までの3年間で30億円を見込む。自社での配送サービスと外販で半々を想定している。